



今年の研究発表会は仙台です

第16回研究発表会は、10月31日(月)から3日間、仙台市で開催されます。会場は広瀬川に隣接する仙台国際センターです。今年の研究発表会は、昨年に引き続き、地方の支部が本格的に主体となって開催する研究発表会となります。特別シンポジウムでは「ごみ減量の取り組みー地方からの発信」というテーマを掲げ、宮城・岩手両県知事による特別講演が行われます。また、パネルディスカッションでは、各分野でのごみ減量化の取り組みが報告され、その成果や課題についての討論がなされます。廃棄物学会では、全国に支部が設置されていますが、本研究発表会は2003年に設立された東北支部が中心になって運営する初めての研究発表会です。多くの方のご協力、ご支援のもと、開催に向けての準備を進めているところです。研究発表会を直前に控え、実行委員会から、いくつかのお知らせを以下に記します。

1. 口頭発表とポスター発表について

本年度の研究発表会では、279 編の口頭発表と 177 編のポスター発表(国際セッションの 34 編を含む)が行われます。本年度の口頭発表は液晶プロジェクターの利用が原則となっており、10 月 17 日(月)までに、パワーポイントで作成したファイルを学会事務局まで送付していただくことになっております。OHP の使用を特に希望される方は、10 月 17 日(月)までに、学会事務局まで FAX でご連絡下さい。

ポスター発表者は、10 月 31 日（月）11 時までにはポスターの貼り付けを行って下さい。また、掲示時間経過後は、できる限り 11 月 2 日の 10 時頃までに発表者によるポスターの撤収をお願いします。プログラムにおいて、「ポスター 1」とある発表は 10 月 31 日（月）12:30～14:00 が、「ポスター 2」に関しては 11 月 1 日（火）11:00～12:40 がそれぞれ会場での発表時間になっています。なお、ポスター発表については、優秀ポスター賞の表彰を行います。会員の方は、投票権がございますので、ぜひ、ポスター会場に足をお運びください。なお、受賞者は 11 月 1 日夕方に発表され、最優秀ポスター賞受賞者については、懇親会の会場で表彰を行います。

2. 講演論文集について

講演論文集には、CD-ROM 版と印刷版があります。印刷版は事前申込数（9 月 16 日締切）をもとに印刷部数を決定していますので、当日の印刷版購入のお申し出にはお応えできない場合もあります。その際にご容赦下さい。また、会場では CD-ROM 版の印刷や閲覧サービスは行いませんので、ご注意下さい。

3. 特別シンポジウムについて

特別シンポジウム「ごみ減量の取り組みー地方からの発信」は11月1日(火)15:15より仙台国際センターの2階大ホールで行われます。

4. 懇親会について

- ・ 日 時：11月1日（火）18:00～20:00
- ・ 場 所：仙台ワシントンホテル レインボーホール
- ・ 参加者：6,000 円

学生会員・登録団体市民会員 3,000 円

- ・ 申込方法：事前申込は終了しました。当日申込は11月1日午前より受け付けいたします。研究発表会参加証を受付にご提示下さい。

[illegible]

11月2日(水)に2コースの施設見学を企画しました。Aコースは半日コース(2日午後)で、まず農林水産省「食品リサイクル施設先進モデル実証事業」の補助を受けて平成15年に稼働した白石市生ごみ資源化事業所(愛称:シリウス)を見学し、その後、宮城県酒造協同組合、東北びん商宮城県支部、業務用酒販店による「リターナブルびんの普及と回収システムの構築」を蔵王酒造展示館にて視察します。また、Bコースは1日コースで、「いわてクリーンセンター」を見学します。この施設は、10年前に厚生大臣より全国で初めて「廃棄物処理センター」の指定を受け稼働した、公共関与による産業廃棄物処理モデル施設です。10年間の稼働実績と今後の課題を聴きながら、産業廃棄物処理施設のあり方や行政の役割について考えます。このBコースでは、義経ゆかりの中尊寺の参拝も企画されています。

なお、見学会の事前申込みは終了しています。キャンセル等があった場合は、当日、受付付近の掲示板でご案内いたします。

6. 会場へのアクセスについて

- JR 仙台駅から仙台市営バスで約 10 分
乗車場所：仙台駅西口バスプール 9 番乗り場

路線名：「宮教大・青葉台」「宮教大」「宮教大・成田山」「動物公園循環 青葉通・工学部経由」

- タクシー（所要時間 7 分）
- 仙台空港から仙台駅行きリムジンバス乗車 40 分で JR 仙台駅に到着後、バスまたはタクシー利用

7. 昼食について

会場である仙台国際センター内にレストランがございます。また会場内で弁当販売もいたします。

8. 緊急時の対応について

緊急時における学会開催等の対応について、学会の臨時 HP (<http://jswme.gr.jp/info/>、10月3日(月)～11月2日(水)のみ)でお知らせします。このページは、携帯電話の web 閲覧機能に対応しています。一部の機種では表示できない場合もありますので、あらかじめご留意下さい。

また、大会本部への緊急連絡先は、「090-8054-4357」
(10月31日(月)～11月2日(水)のみ)となっています。

それでは、仙台にてお待ちしております。

(年会実行委員会総務委員 東北大学 吉岡敏明)

東北支部

平成 17 年 8 月 11 日

総会・講演会 開催報告

平成 17 年度東北支部総会、講演会、懇親会が、平成 17 年 8 月 11 日、仙台ガーデンパレス（仙台市）において開催された。総会では、平成 16 年度における事業報告と収支決算報告、監査報告及び平成 17 年度の活動計画案と収支予算案の審議が行われ、いずれの議案も原案通り承認された。なお、次期支部長候補者として江成敬二郎氏（東北工業大学）が満場一致で推薦された。

総会に引き続き、講演会（参加者 42 名）が開催され、中村崇氏（東北大学）と野池達也氏（東北大学名誉教授、日本大学）にご講演いただいた。

中村氏には「飛灰処理の技術動向」と題して、ごみ焼却プロセスから発生するダストを中心に、飛灰処理方法としての熔融処理、非鉄製錬産業と環境問題の関わり等についてご講演いただいた。経済性だけで判断するとキレート処理後に埋め立てる飛灰処理方法が有利となる。しかし、非鉄製錬産業の保有する技術を活かし、廃棄物を重金属原料として資源化する方法が循環型社会の構築に求められること等を豊富なデータをもとに解説していただいた。

続いて野池氏からは「バイオマス総合戦略におけるメタン発酵の役割」についてご講演いただいた。地球環境保全において期待されるバイオマスの役割、バイオマス有効利用への国の取り組み（バイオマス・ニッ

ボン総合戦略)、そしてその一例としてのメタン発酵の役割について、分かりやすく説明していただいた。特に農村地域の活性化に対するメタン発酵の役割については、実例を交えながら氏の想いを込め、お話しいただいた。

懇親会には 28 名の参加があり、会員相互の交流を深めることができた。(東北支部 中村 修 記)



▲講演会の様子

アジア太平洋廃棄物専門家会議のお知らせ

アジア及び太平洋諸島の各国はいずれも増大する廃棄物問題を抱えており、その対応が緊急の課題となっています。また、地域・国を越えた廃棄物資源の循環が急速に拡大しており、廃棄物の資源利用、3R を各国共通の問題として考える必要が生じています。さらに、本年 4 月には G8 を含む 20 カ国及び 4 つの国際関連機関の代表の参加を得て、3R イニシアティブ閣僚会合が東京で開催されました。この会合の結果として、各国における 3R 推進のためのビジョン・戦略の策定・実施を推進するとともに、3R 関連物品等の国際流通に対する障壁の低減、先進国と開発途上国との協力、さまざまな関係者間の協力、3R に適した科学技術の推進に、国際協力の下、取り組みを一層充実・強化していくことが合意されました。このような問題とニーズに適切に対処していくことが、アジア及び太平洋諸島地域、さらには世界全体の持続可能な発展に必要であると考

えています。

廃棄物の処理とその資源利用の問題に効率よく対処するためには、各国単位で努力するだけでなく、地域レベル・世界レベルで問題の解決に向けて協力していくことが不可欠です。アジア及び太平洋諸島の各国はいずれも貴重な廃棄物管理の経験を有しております。今後、増大する廃棄物問題に効率的に取り組み、改善の効果を高めていくためには、相互の事情を理解し、経験を学び、情報を共有する必要があります。そのため、この地域における各国のパートナーシップを形成し、廃棄物専門家及び関係者の考えや経験の情報交換をしていくため、専門家のフォーラム開催も今後の視野に入れた、ネットワーク化の形成が必要となります。そこで、標記専門家会議を以下のように開催することといたしました。

- 1) 日時：2005 年 10 月 28 日（金）、29 日（土）
- 2) 場所：独立行政法人国際協力機構（JICA） 国際協力総合研修所 国際会議場
東京都新宿区市谷本村町 10-5 TEL：03-3269-3210
地図：<http://www.jica.go.jp/branch/ific/map/index.html>
- 3) 主催：廃棄物学会、独立行政法人国立環境研究所、岡山大学 COE プログラム、独立行政法人国際協力機構（JICA）、国際協力銀行（JBIC）

4) プログラム

10 月 28 日（金）：公開ワークショップ 受付 9:00～

9:30－9:50	主催者挨拶 山本和夫 廃棄物学会会長
9:50－10:10	基調講演Ⅰ 「3R イニシアティブとアジアの連携」 由田秀人（環境省）
10:10－10:25	Coffee Break
10:25－12:25	セッション 1（各国の状況 1） 6 カ国発表、Discussion
12:25－13:30	Lunch
13:30－14:30	セッション 2（各国の状況 2） 3 カ国発表、Discussion
14:30－14:50	基調講演Ⅱ 「アジア太平洋地域の廃棄物管理」 田中 勝（岡山大学）
14:50－15:10	Coffee Break
15:10－17:30	全体討議
18:00－20:00	レセプション

10 月 29 日（土）：専門家会議 受付 8:30～

9:00－9:15	ワークショップの概要
9:15－10:45	全体討議Ⅰ
10:45－11:00	Coffee Break
11:00－12:15	全体討議Ⅱ
12:15－12:30	アピールの採択

（会議は全て英語で行われ、通訳はありません）

- 5) 参加国（予定）：日本、韓国、中国、タイ、フィリピン、インドネシア、カンボジア、マレーシア、ベトナム、インド等
- 6) プログラムの詳細は下記をご覧ください。また、参加申込みも下記ホームページから申込みください。
ホームページ：<http://www.jswme.gr.jp/international/>
- 7) 参加費 無料
- 8) 連絡先：廃棄物学会国際委員会
TEL：03-3769-5099 FAX：03-3769-1492 E-MAIL：international@jswme.gr.jp

【お知らせ】

東海北陸支部主催

「廃棄物処理技術」第2回基礎講習会

開催日時：平成17年10月26日(水)～27日(木)
9:30～17:00
開催場所：名古屋都市センター（名古屋市）
参加費：正会員、登録団体市民会員 15,000円
学生 10,000円 一般 20,000円
定員：100名（先着順）
申込締切：10月20日(木)
申込方法：氏名、所属、連絡先、送金内容を記載の上、FAX
又はE-mailにて、下記までご連絡ください。
参加費の入金方法は下記ホームページをご覧ください。
申込先：廃棄物学会東海北陸支部事務局
(担当：伊藤麗子、中尾忍)
TEL 052-789-5851 FAX 052-789-5849
E-mail r-ito@mail.apchem.nagoya-u.ac.jp
nakao@esi.nagoya-u.ac.jp
※詳細については下記ホームページをご覧ください。
<http://www.jswme.gr.jp/tohkai/>

中国四国支部主催

ハイムーン環境まんが展 in ひろしま

開催日時：平成17年11月16日(水)～20日(日)
9:30～22:00(初日は13:00から、最終日は15:00まで)
講演会；19日13:30～15:00
ワークショップ；19日15:30～17:30
開催場所：広島市まちづくり市民交流プラザ（広島市）
参加費：無料
講演会申込方法：11月9日までに下記まで申込みください。
申込先：ハイムーン環境まんが展 in ひろしま実行委員会
E-mail: yasushi_ohnishi@m7.dion.ne.jp (大西)
TEL/FAX: 082-247-8530 (岩地)
※詳細については下記ホームページをご覧ください。
<http://www.jswme.gr.jp/chushi/>

※学会事務局は、研究発表会開催のため、
10月31日(月)～11月2日(水)は不在となります。

会 員 状 況	
H17.9.30 現在 () 内は、H17.4.1 以降の増減	
正 会 員	3,443 (10)
学生会員	354 (48)
外国人会員(DM)	25 (3)
登録団体市民会員	4 (1)
公益会員	111 (2)
賛助会員	176 (1)
計	4,113 (65)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第4条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No. 89 平成17年10月5日発行
廃棄物学会 〒108-0014 東京都港区芝5-1-9 豊前屋ビル5F
Tel. 03-3769-5099 Fax. 03-3769-1492

 <http://www.jswme.gr.jp>
印刷媒体は古紙配合率100%再生紙を使用しています

JSWME Newsletter No.54 (October)

発行のお知らせ

英文ニューズレター第54号が発行されました。
※JSWME NEWSLETTERは41号より電子配信のみとなっています。
最新号、バックナンバーは学会HPから入手できます。
(主要目次)
JICA 報告書：「開発途上国廃棄物分野のキャパシティ・ディ
ベロップメント支援のために(英語版)」発行
廃棄物分野の ODA：ダッカ市(バングラデシュ)における S
WM調査
自治体事業の紹介：3Rの実現に向けて 一福岡市の家庭ごみ
有料化の経緯—

The contents of No.54

1 Dear Waste Management Experts
2 JICA Report Issued:
“Supporting Capacity Development for SWM in
Developing Countries”
3 Japan's ODA on SWM:
- JICA Study on SWM in Dhaka City, Bangladesh -
4 Towards 3R-oriented Society - Journey to
Collection Fee Charging System in Fukuoka City -
5 Contents of Journal of the JSWME, Vol.16, No.4
6 Cartoons by High Moon:
“People are apt to treasure their residence
amenity but our common environment.”

☆☆事務局だより☆☆

今号の事務局だよりは、平成17年9月6日に開催され
ました「故田中信壽先生を偲ぶ会」のご報告とさせて
いただきます。■偲ぶ会には、76名の方々が出席され
ましたが、台風14号の影響で、九州四国方面の方々の
ご出席は叶いませんでした。■第一部の追悼会では、
黙祷の後に、山本和夫会長より田中信壽先生のこれま
での学会へのご尽力に対する尊敬と感謝の念をこめら
れた追悼のご挨拶がありました。続いて、北海道大学
松藤敏彦助教授が、田中信壽先生の幅広い学術研究の
代表として埋立地研究のご功績と地方や国の廃棄物問
題解決へのご貢献を紹介されました。さらに、高月紘
前会長が、田中信壽先生の学会設立準備期間でのエピ
ソード、年会委員会と研究委員会での活躍、副会長、
会長としてのご功績に加えて、ハイムーン氏作の「田
中先生と廃棄物研究とのお別れ」の漫画を紹介されま
した。■第二部の追悼懇談会では、田中勝元会長より、
追悼の辞として、田中信壽先生との思い出、ご家族の
こと、先生が若いときからスポーツ万能であったこと
等のご紹介と奥様からの偲ぶ会開催への感謝のメッ
セージを代読いただきました。献杯の後、参加者は、
会場内で映写された100枚を超える田中信壽先生の写
真を見ながら、先生の温かいお人柄と廃棄物研究へ
のご功績を語られていました。(谷川 昇 記)

次号(学会ニュース No. 90)は1月1日発行予定です。